

留学報告書 II (2021 年度留学生)

塾内在籍校・学年(派遣時)	慶應義塾中等部 2 年
留学先校名	Fay School
留学期間	2021 年 9 月から 2022 年 6 月まで

留学を振り返って

留学先では、期待どおりの生活を過ごせましたか？

今年は前年よりコロナも収まって来ていて、日本ではできない素晴らしい経験をたくさんすることができました。自分が得意ではないこと、やったことがないことにも積極的にチャレンジして、自分に自信が持てるようになりました。

これが私にとって初めての海外での生活で、初めて日本を外から見てみるという体験をしました。これまでは日本はアジアの中ではトップだと思っていたけれど、実際に Fay に行ってみるとアジア系のコミュニティでは韓国人と中国人がとても強く、日本人は圧倒的なマイノリティでした。私は Fay でも最もレベルの高い数学のクラスの一つに入っていたのですが、私は唯一の日本人で、他は全員韓国人か中国人でした。そのクラスに日本人が入るといのは過去にないらしく、先生も私のことを中国人だと思っていました。日本人の謙遜を美德とする態度とは正反対の、多少嫌がられても前を向いて自分を向上させる機会を追求する彼らの姿に、これがアメリカで成功するのに必要な力なのだな、と感心させられました。

Fay の特によかった点は、少人数制なので、先生の目が生徒に行き届いているところです。私は秋学期の初めの頃、失敗への不安から理科のクラスであまり発言できていませんでした。Mid-term あたりに初めて発言したときには、問題が全く難しくなかったのにも関わらず先生が”Great job!” と毎回言ってくださり嬉しかったです。秋学期も終わりになってくると恐れずに発言できるようになりましたが、それでもクラスで一番発言するわけではありませんでした。しかし、先生は私の成長を評価してくださり、

Exemplary の official note をクラスで一人だけもらうことができました。また、2 週間ごとに出来る成績表である Effort Grade も、自分がどれだけ努力したかが反映されていて、今後何を改善できるかの指標になりました。人と成績を比べることは全くなく、先生からも常に”Be your best self”ということが強調されていて、他人と比べての自分ではなく、自分自身に自信を持つことができるようになりました。

寮生活では、先生と友達が本当に家族のようで、寮はまさに”home away from home”でした。私は 3 人部屋に住んでいたのですが、学校後も常に英語に接することができました。また、人数の多い寮だったので、たくさん友達を作ることができるのもよかったです。私の寮は独立したハウスになっていて、友達同士の団結力も強かったと思います。23 人の生徒と 3 人の先生、その家族が住んでいて、いつも賑やかでホームシックとは無縁の留学生活を送ることができました。特にルームメイトは、お互いの性格や趣味を知り尽くして、かけがえのない存在になりました。

Fay は生徒数がそこまで多くないので、community としての意識が強いのもよかったです。春学期からは平日のランチと日曜日から木曜日までのディナーが Fay の伝統の Family style dining で行われました。1 テーブルにつき学年や男女混合で 11 人の生徒と先生が座り、学校であったことを話すなど、さらに友達の輪を広げることができました。2 週間ごとに席が変わるので、ほとんどの人と顔見知りになりました。留学生活で特に頑張ったのは Speech contest です。Fay では毎年冬に upper school の全ての生徒が参加するスピーチコンテストがあります。英語が母語ではなく、また大勢の人の前で話をするのが苦手な私はスピーチが自分にできるか自信がありませんでした。しかし、英語の先生でドームペアレントでもあった先生と学校と寮で何度も原稿を修正して、クラスで一人だけ semi final に進むことができました。学年別で行われる semi final では、周りの人のレベルも高く圧倒されていましたが、スピーチを暗記し、目配りも意識して自分らしいスピーチもできて、final に進むことができました。Final では、upper school の全ての生徒と先生の前でスピーチをする貴重な機会になり、知らない先生や話したことのない生徒からも後から良かったと言われて嬉しかったです。

クラブ活動や課外活動など、学業以外の活動について教えてください。

<スポーツ> 放課後に毎日1時間ほど全員参加のスポーツがあります。

秋学期-volleyball

バレーボールはとても人数が多く、仲の良い友達も多かったので、楽しくプレーすることができました。また、先生も丁寧に教えてくださり、上達することができました。週に二回ほどあった他校との試合では、他の学校に行ったり、他の学校の生徒が Fay に来たりしていました。

冬学期-dance

冬は屋外のスポーツがほとんどできないため、秋と比べて選択肢が少なかったです。私はルームメイトに誘われて dance を選択しました。先生も友達も優しく、楽しい時間を過ごすことができました。ただ、冬学期はコロナの影響で様々な舞台が中止になり、陽性者もいたため、例年とは少し違ったようです。

春学期-Track and field

男女混同で1つのチームだったので人数がとても多かったです。ルームメイトが二人ともやっていたことや、コーチの先生と仲良くなれたので、楽しかったです。毎週1、2回ほど track meet があったので忙しかったのですが、いい思い出になりました。

<クラブ活動> 毎週木曜日に1時間ほどクラブの時間があります。

秋学期-Competition Math Club

競技数学をするクラブで、AMC(American Mathematics Competition)という大会に向けて問題を解いていました。AMC10(10年生以下の数学の大会)では、Certification of Distinction をいただき、次のラウンドである AIME(American Invitational Mathematics Examination)に進むことができました。

冬・春学期-Newspaper Club

校内誌を執筆するクラブです。冬学期には先生もコロナで陽性になったりするなど、学校が少し混乱してクラブが行われない週が続きましたが、2月くらいに再開しました。グループや個人でインタビューをして、主に Fay についての記事を書いていました。

<meeting>

毎週木曜日に任意参加のミーティングがあり、時間に余裕がある時は参加していました。長いときは study hall の時間までかかってしまいましたが、LGBTQ+やBLMのことをより知ることができて良い経験になりました。

・Students of color affinity group

Fay にいるアジア系、アフリカ系の生徒が集まって、identity や racial background について話し合う場所でした。マサチューセッツ州にあるミドルスクールが集まって行われるミーティングもあり、Fay 以外の他の学校の生徒とも親しくなることができました。このほかにも community connection などのミーティングがありました。このようなミーティングを通じて、学校は差別や偏見のない student body を作ろうと努力していたのだと思いますが、実際に私の学年では人数が多いのもあってかほとんど人種ごとにグループができてしまっていることが現状で、diversity とは何なのか考えさせられる機会になりました。

<8th grade service project>

Fay の1つの目標である dedicated service に基づいて、upper school の全ての学年の生徒が service project を行います。コロナ前は秋に New York に行つて service project をしていたそうですが、今年はコロナの影響でそれが中止になり、8年生は冬学期に service project を行いました。心身に障害がある人にも暮らしやすい社会を考えるというもので、ほぼ毎週木曜日に zoom でレクチャーがありました。2月下旬と4月上旬には special olympics と言って、Fay の gym で開催されたマサチューセッツ州の心身に障害のある方のスポーツ大会のお手伝いをしました。

<Weekend activities>

週末にはたくさんのアクティビティがありました。ボストン観光やスケート、ターゲットなどに行く off campus のものから art や cooking project などの on campus のものがありました。コロナの状況が悪かった冬学期のほとんどは off campus の trip がなくなりましたが、それ以降は復活しました。最後の週末は、先生の同伴なしで Downtown Southborough に友達と行けるトリップもあって楽しかったです。

学業について

各授業について授業の内容・進め方・課題・試験・日本との比較などについて触れながら記入してください。

授業はディスカッションがほとんどなので、授業中は常に積極的にいることが大事でした。日本と比べてプロジェクトが多かったように思います。1クラスの人数は多くても15人くらいで、普通は10人前後でした。宿題については毎日出て、中等部よりは多かったですがとても多いというわけではありませんでした。また、パソコンでの作業がほとんどでした。効率的にすることを心がけていたので、日中の空きコマまで終わることが多く、dinnerの後のstudy hallでは宿題がない日もありました。試験については、科目ごとに頻繁にquizが実施されます。中間考査はなく、秋と春は期末考査がありました(冬はプロジェクトが期末の替わりでした)試験は、毎日の内容を理解していれば難しくなく、中等部と比べてとても簡単でした。Effort gradeは、授業貢献度に重きを置いた成績表で、普通は3、よければ4、5となります。また、mid-termとend of termはAcademic subjectsのみA+からE-で成績が出ます。これはテストのスコアに重きを置いた評価でした。ちなみに、主要5科目はほとんど毎日授業があり、進みがとても速かったです。

・数学:ETAG (Extended Topics in Algebra and Geometry)

Algebraを全て終えた人のためのクラスです。Fayのnew studentsが入れるクラスとしては最上位クラスだったので、周囲も熱心な人が多かったように思います。このクラスでは、Exeterのハークネスを見習ったProblem-based learningをしていて、宿題としてProblem setが毎日出て、解き方を翌日のクラスでみんなに発表したり、ディスカッションしたりする形式でした。先生が教えることは一切なく、生徒主導で進められるので初めは一番苦労しました。ディスカッションだと周りの人が言っていることを踏まえてから自分の意見を発言しないとイケないので、最初の頃は、周りの人が言っていることを理解して何を言うか考えるとその間に話がさらに進んでいってしまう時がありました。経験を積むうちにスピードにも慣れていって、うまくできるようになりました。

・理科:Physical Science

8年生はPhysical Scienceで化学、物理、プログラミングを勉強します。秋学期ではprocessingを使って、プログラミングをしました。信号や時計、ゲームを作りながら、プログラミングの基礎を楽しんで学ぶことができました。冬学期は物理を勉強しました。単位計算や有効数字などの単純なものから始めて、物体の加速度について学びました。春学期は化学を勉強し、Periodic tableの最初の20個を覚えることから始まり、bondingやadhesion/cohesion、molについて勉強しました。

・英語:Literature and Composition

リーディングと語彙力の強化をテーマにしたクラスでした。学期ごとに1冊の本を全て読んで、ディスカッションや、本をanalyzeしたエッセイを書きました。第二次世界大戦中のアメリカでの日本人の強制収容をテーマにした本や、アメリカの先住民への差別をテーマにした本を読んで、少数派の差別やidentityについて議論しました。この授業では、自分の意見を持って発言することが一番大切でした。Speech Contestの原稿もこのクラスで書きました。

・英語:Inquiry and Analysis

配布された教科書に沿って文法やvocabularyを学びました。単調になりがちなvocabularyも、みんなでKahootやQuizletで楽しみながら勉強できました。春学期はFayの幼稚園行って、ペアになった子にwritingを教えるというプロジェクトもありました。Primary schoolも生徒とも交流することができて楽しかったです。

・歴史:American History

配布された教科書に沿って、先住民を征服してからGreat Depressionのアメリカまで学びました。Google slideを使ったプレゼンテーション、1800年台の主要な人物について調べてobituaryを作るプロジェクト、propagandaの勉強の一環として南北戦争について南方の視点から新聞を書くプロジェクトなど、難しいけれど楽しいプロジェクトが多かったです。この授業では、歴史を権力者の目から見るとはならず、貧しくて権力がない人の視点から見るのを重視していました。また、Primary sourceやSecondary sourceについて学び、正しい情報の見つけ方や引用の仕方なども学びました。

今後について

この派遣留学を通して、自分自身にどのような変化があったと感じていますか。

英語力の上達はもちろんですが、自分のソーシャルスキルが大きく向上したと思います。ディスカッションがメインの授業では自分の意思表示をして、自分の意見をはっきり言わないと成績につながらないので、間違えてもいいからとにかく積極的に行動できるようになりました。日本ではいくら間違えるのはいいことだと言われていても、私含め多くの人が間違える勇気がなかったのですが、Fay ではみんなたくさん間違いをされていて、それでもそれを受け止めて尊重する環境があつて、自分もミスをしていいんだ、と自信を持つことができるようになりました。また、family style dining では、2週間ごとに席が変わっていつも仲の良い人と同じ席になれるわけではないので、新しい人にも躊躇わずに話しかけることができるようになりました。私は少しシャイな性格だったので、これは大きな進歩だと思います。さらに、これは今でもはっきり覚えていることですが、move-in day の日に、親と別れて最初のドームミーティングをしたとき、これからは友達と暮らすんだ、修学旅行みたいだと思っていました。最初の秋学期こそは他の人と一緒に暮らすというのは少し違和感がありましたが、冬、春学期を通じ、楽しいことも嫌なこともたくさん共有するうちに、友達ではなく、なんでも話せて利害関係を超えて協力できる家族のような関係になれました。寮の友達と過ごす時間が本当に一番楽しくて、一人で抱え込まずに他の人を頼れることができるようになりました。家族以外にも家族のような信頼できる存在がいるということは、私にとって大きな安心感になって、学校でも自分の comfort zone を抜け出して様々なことに挑戦できるようになりました。

今後の派遣留学生へのアドバイス

(事前に日本で学習しておいた方がよいことや、用意しておいた方がよいことがあればお知らせください)

<事前にしておいた方がいいこと>

留学前は英語を勉強するのも重要ですが、英語力、特にリスニングとスピーキングはFay でいくらでも伸ばす事ができます。Fay はスポーツの比重が比較的大きい学校なので、何か得意なスポーツがあると学校生活が楽しめると思います。また、Fay では英語が話せるのが当たり前なので、英語をたくさん勉強するよりも、何か英語以外で誰にも負けないようなものがあると自分の居場所を見つけやすいし、他の人からも認められて学校生活がスムーズに進むと思います。

Fay は8年生から新しく入る人がとても多く、アメリカの高校は9年生から始まるため8年生が終わったら別の学校に行く人が多いです。そのため、慶應からの派遣留学生も馴染むのはとても簡単だと思います。最初は長いと思っていた留学期間も本当にあつという間に過ぎていくので、1日1日を大切に、失敗をしてもいいからとにかくいろんなことにチャレンジするべきです。とにかく留学先での一年を楽しんで、充実させてください。

以上

